

1. 報告要旨

日本に流通するバナナを取り扱う大手 3 ブランドのバナナを調達し、残留農薬のスクリーニング調査を行なうことで各社の浸透性農薬の使用状況ならびにその他農薬の過剰利用や適正管理にかかわる指標を得た。具体的にはスミフル社からは他社と比較して多くの農薬を使用する傾向が確認された一方で、ユニフルーティ社(チキータブランド等展開)取り扱いバナナからは農薬の検出量が目立って少なかった。そのことからユニフルーティ社では農薬の管理を強める経営的工夫が行われていることが示唆される。

さらにネオニコチノイド系農薬はそれが本来禁止されているレインフォレストアライアンス認証を受けているドール社取り扱いレーベルからのみ複数回にわたって検出される事態が確認された。

これら調査結果をフィリピンで実際に報告されてきた農薬によるものと思われる住民や労働者の健康被害と合わせて報告書「バナナが降らせるフィリピン『毒の雨』」にて示すことで消費者が関心を持つトピックに浸透性農薬の問題をひきつけ、新たな関心層の開拓に努めた。同報告書に関しては SNS での拡散に努め、2 週間の間に Facebook 上で 6 万近くのユーザーの目に触れるきっかけを作った。

なお、今回の農薬スクリーニング調査に見られたようにブランドごとに農薬の管理体制に有意差が確認されている中で、スーパーマーケット経営上位 20 社のバナナ調達における倫理的方針の有無や適用範囲に関する質問状を送付したところ、回答は 2 社からにとどまった。度重なる回答依頼に対して返答が行われなかった点は各社の取り組みが電子機器メーカーなどサプライチェーンマネジメントに先進的な取り組みを行う業界と比して小売業が全体的に立ち遅れている実態を示すだけでなく、市民社会組織に対する消極的な姿勢もあらわしている。

今後は協力団体を通して消費者協同組合も巻き込んだ消費者運動として浸透性農薬の問題の普及啓発に努めることでスーパー各社の意識改革を促し、サプライチェーン上流の生産現場へと影響を及ぼしていくことを目指したい。

2. 成果物

1. 大手スーパーマーケット取り扱いのある主要 3 ブランドのバナナをサンプルとした農薬スクリーニング調査の実施(45 検体)
報告書: [「バナナが降らせるフィリピン『毒の雨』」](#)
2. [大手スーパーマーケット 5 社に対するサプライチェーンのシステムとマネジメント方針に関する公開質問状](#)
3. バナナの農薬スクリーニング調査をウェブサイト・SNS での公開および告知ツール
4. エシカルバナナ・キャンペーンと連携した調査結果の公開・拡散、およびキャンペーンのメルマガ購読者数拡大 (682 名)